令和８年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策　【松江市立 中央小学校 】

(1)学力調査結果から見られた傾向

教科		分析(成果○，課題●)	改善策(・)
国語	成果	○全体として県平均を上回っている。 ○「読むこと」において、文章の内容を捉える力が身に付いている。	・文章を読む際に、問いに対する根拠を本文から見付けることや、根拠を明確にして自分の考えを表現する活動を継続する。 ・漢字を単独で「覚える」のではなく、文や文章の中で使う活動を日常的に行い、漢字を「使える」ことに重きを置く。 ・「読む→考える→書く」という段階的な活動を、短い記述から積み重ねていく。
	課題	●既習漢字を文脈に応じて適切に使うことに課題がある。 ●文章から必要な情報を取り出したり、文章の構成や表現の工夫を捉えたりすることに課題が見られる。 ●記述問題での無回答が多い。	
算数	成果	○全体として県平均を上回っている。 ○基礎的・基本的な知識・技能については一定の定着が見られる。	・式を立てる前に、問題場面を「言葉→図→式→答え」と数量関係を言葉にして捉えることの習慣化を図る。 ・答えだけでなく、考え方や根拠を説明したり、式の表す意味やその式である理由を説明したりする活動を取り入れる。 ・日常的にデータを読む機会を増やす。
	課題	●「知識・技能」に比べて「思考・判断・表現」を問われる問題において正答率が低い。 ●データの活用、二次元表、割合、分数など数量関係を式に表す問題に課題が見られる。	

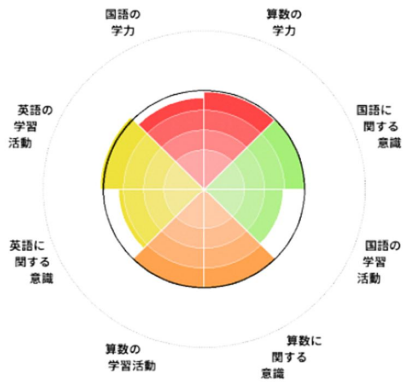
(2)質問紙調査から見られた傾向

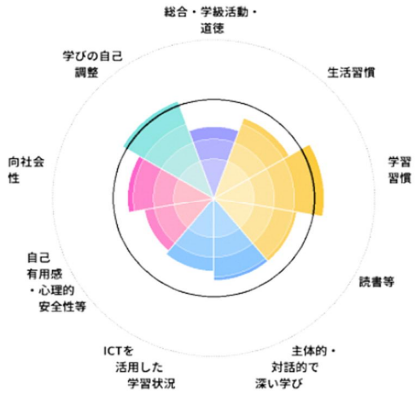
		分析(成果○：強み/伸ばしたい点，課題●：弱み)	改善策(・)
質問紙	成果	○知りたいことやわからないことに対して、自分で学び方を考えて工夫している児童の割合が高い。 ○人の役に立つ人間になりたいと考える児童の割合が、昨年度よりも増えた。	・学校での読書推進の取組を重点的に進めたり、新聞活用の中で、語彙を増やす活動を取り入れたりする。 ・学校生活の中で、最高学年としての自己有用感や達成感を味わえる場を設け、頑張りを認める声かけを積極的にしていく。
	課題	●読書時間が短く、新しい文章や言葉に触れる機会が少ない。 ●授業におけるICT機器の使用頻度が低い。 ●自分の良いところを自覚できずにいる児童が多い。	

(3)その他、今後校内研究等学校全体で特に力を入れて取り組むこと

学校全体	○「自分の考えの根拠を明確にして表現する力」の育成 ・本校の研究で取り組んでいる意図的な対話の際に、自分の考え根拠をもって伝えることを意識する働きかけをしていく。 ・各教科の授業において、問題や資料から必要な情報を取り出し、根拠をもとに自分の考えを形成し、言葉や図、式等を用いて表現する活動を充実させる。

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)





【受検者数】

33 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

